

基本理念

ふるさとを愛し 夢と志をもって 未来を切り拓く^{ひと}人材の創造 『オール四万十』で学びあい 高めあい つながりあう^{ひと}人材の創造

- 本市の地域特性を活かした、ふるさとを知り、ふるさとから学ぶ特色ある教育を大切に、学校間の連携、学校・家庭・地域の連携を図りながら、望ましい学びと育ちの環境づくりに努めていく。
- 健康で知性と徳性を備え、社会の変化に主体的に対応し、仲間と協働的に学びあい、高めあい、つながりあいながら生き抜いていくことができる心豊かでたくましい子どもたちの育成を目指す。
- 幼児、子ども、青年、成人、高齢者がそれぞれのライフステージの中で、芸術・文化・スポーツを楽しめる場や機会づくりの充実を図り、生涯学習・生涯スポーツを通じて、世代と地域を超えてつながりあいながら、青少年の健全な育成を図る。

施策の体系

基本目標

「豊かな人間性」と「生き抜く力」を備えた人材の育成

学校・家庭・地域が連携・協働しながら、未来を担う子どもたちに夢と希望を与え、知・徳・体の調和のとれた「豊かな人間性」と「生き抜く力」を備えた、全国トップレベルの児童生徒を育成する。

施策の柱

1 確かな学力を育む(知育)

2 子どもたちの豊かな心を育む(徳育)

3 健やかな身体を育む(体育)

各施策

- ①基礎学力の定着と学力の向上 ②教職員の資質・指導力の向上
- ③保幼小中連携教育の推進 ④国際理解教育・英語教育の充実
- ⑤特別支援教育の推進
- ⑥複式教育の充実 ⑦情報教育の推進



- ①豊かな心を育む教育の推進
- ②いじめ・不登校問題等への取組 ③安全・防災教育の充実
- ④学校・家庭・地域の連携強化 ⑤ふるさと教育の推進
- ⑥キャリア教育の充実 ⑦環境教育の推進 ⑧教育環境の整備

- ①体力・運動能力の向上と健康教育の推進
- ②基本的生活習慣の確立と食に関する教育の充実



地域の誇りとなる地域文化の継承

先人により培われてきた本市独自の歴史・文化を今一度見つめなおし、すべての世代が、ふるさとを知り、誇りに思えるよう、文化活動の活性化を図る。

4 地域文化の振興

5 青少年の育成

- ①文化財の保護
- ②郷土文化の活用



- ①青少年健全育成活動の充実



誰もが親しめる生涯学習・スポーツ環境の充実

誰もが生涯を通じて自らを高め、楽しみや生きがいをもって健康に暮らすことができるように生涯学習・スポーツ環境の充実を図り、心身ともに豊かで人の交流の輪が広がる共生社会の形成を目指す。

6 生涯学習の振興

7 スポーツの振興

- ①誰もが参加しやすい生涯学習の充実と推進
- ②芸術文化の振興
- ③人権教育の推進

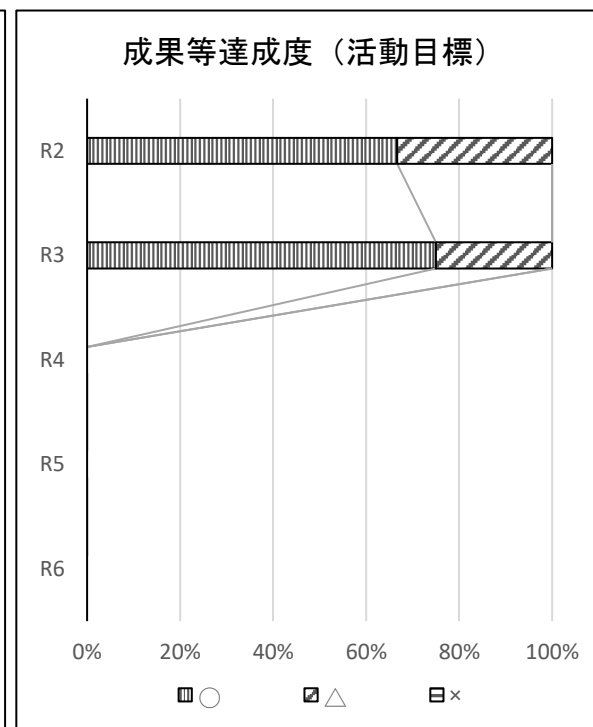
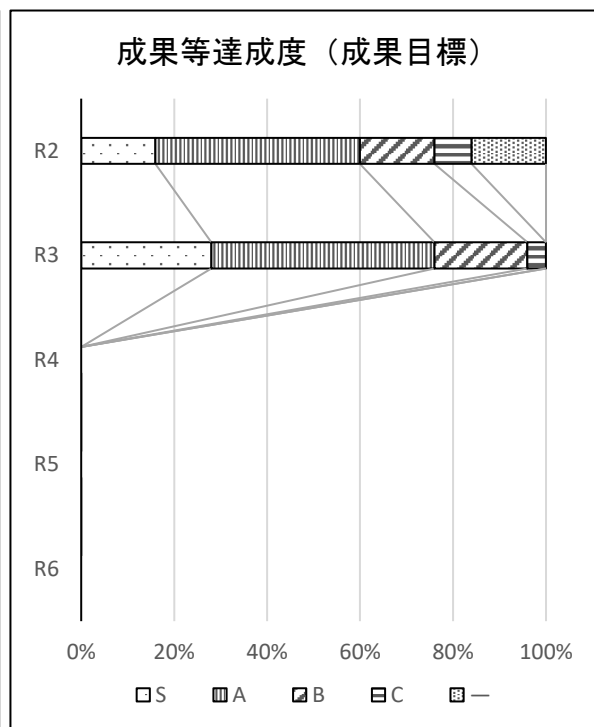
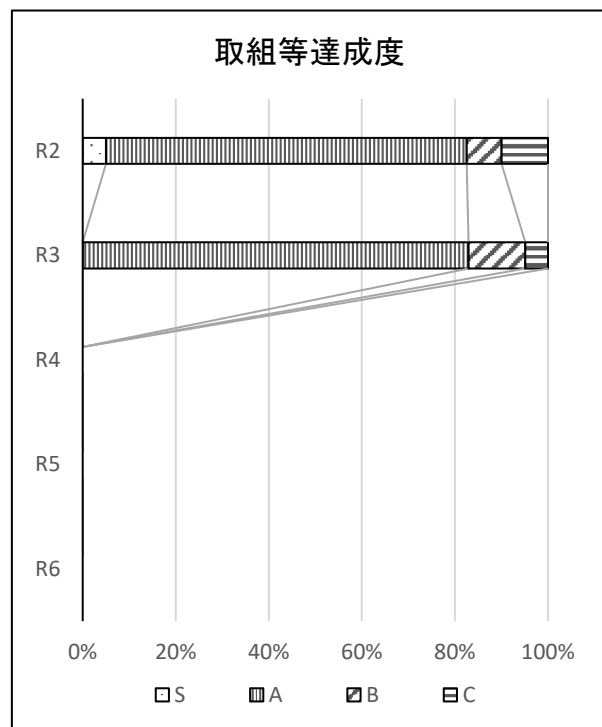


- ①健康とふれあいのための生涯スポーツの振興
- ②各種イベント等を介したスポーツの振興



第2期四万十市教育振興基本計画 施策進捗状況確認シート 達成度評価集計表

		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		評価数	構成比率	評価数	構成比率	評価数	構成比率	評価数	構成比率	評価数	構成比率
取組等達成度	S=計画以上の実施	2	5.0%	0	0.0%						
	A=計画通り	31	77.5%	34	82.9%						
	B=実施内容が計画より低水準	3	7.5%	5	12.2%						
	C=未実施	4	10.0%	2	4.9%						
成果等達成度 (成果目標)	S=達成度が105%以上	4	16.0%	7	28.0%						
	A=達成度が90%以上105%未満	11	44.0%	12	48.0%						
	B=達成度が70%以上90%未満	4	16.0%	5	20.0%						
	C=達成度が50%以上70%未満	2	8.0%	1	4.0%						
	—=成果が確認できなかったもの	4	16.0%	0	0.0%						
成果等達成度 (活動目標)	○=良い効果が得られたもの	10	66.7%	12	75.0%						
	△=効果無又は影響良否不明	5	33.3%	4	25.0%						
	×=悪い効果となったもの	0	0.0%	0	0.0%						



第2期四万十市教育振興基本計画 施策進捗状況確認シート

施策の柱	目標種別	R2～R6 成果等目標	R3年度					R4年度							
			R3 担当	R3年度の取組計画(目標)	R3年度の取組実績	取組 等達成 度	R3年度の成果・効果	成果 等達成 度	R4 担当	R4年度の取組計画(目標)	R4年度の取組実績	取組 等達成 度	R4年度の成果・効果	成果 等達成 度	
1 確かな学力を育む(知育)	(1)基礎学力の定着と学力の向上	成果	小学校、中学校ともに全国上位を目指す。 【市総合計画指標】 全国学力・学習状況調査における各教科の正答率 小学校:全国平均+5ポイント 中学校:全国平均+3ポイント	学校 教育係 (指導主事)	学力調査の実施と分析 ①各種学力調査の実施 ②校長会での周知徹底 ③教育研究所と連携して調査結果の分析 ④課題のある学校への訪問と対応策の聞き取り ⑤中学校教科部会の実施	①R3.5.27 全国学力学習状況調査実施 R3.12.7～8 高知県学力定着状況調査実施 ②全ての校長会で周知(事前・事後の取組を含む) ③調査分析結果を8月・10月・2月校長会で各校に伝達 ④9～10月に全校へ訪問し実施 ⑤教育研究所主催で各教科で実施	A	令和3年度全国学力学習状況調査 全国平均との比較 ○小学校: 国語+8.2 算数+6.1 ○中学校 国語+3.4 数学+7.3	A	学校 教育係 (指導主事)	学力調査の実施と分析 ①各種学力調査の実施 ②校長会での周知徹底 ③教育研究所と連携して調査結果の分析 ④課題のある学校への訪問と対応策の聞き取り ⑤中学校教科部会の実施				
	(2)教職員の資質・指導力の向上	成果	年間を通じて3回の支援派遣を実現させる。	学校 教育係 (指導主事)	指導主事等、外部講師を招聘した校内研修の充実 ①校内研修の年間計画作成(外部講師等の招聘予定を明記)市教委に提出 ②学校経営計画の作成及び検証 ③授業改善プランの作成及び検証 ④各学期の支援派遣提出	①～④ 全22校で実施	A	3回以上実施校=22校(100%)	A	学校 教育係 (指導主事)	指導主事等、外部講師を招聘した校内研修の充実 ①校内研修の年間計画作成(外部講師等の招聘予定を明記)市教委に提出 ②学校経営計画の作成及び検証 ③授業改善プランの作成及び検証 ④各学期の支援派遣提出				
	(3)保幼小中連携教育の推進	成果	①すべての学校で保幼小中の情報交換会を実施 ②すべての小学校でスタートカリキュラムを作成	学校 教育係 (主監)	保幼小中連携教育の充実とスタートカリキュラムの作成 ①保幼小中連携教育の研究指定校の設定 ②保幼小情報交換会の開催 ③保育所長会への参加 ④小中の連携教育の実施 ⑤小学校においてスタートカリキュラムの作成	①1校1役教育研究指定において八東小中学校、中筋小中学校、西土佐小中学校を指定 ②、⑤全13小学校にて実施 ③R3.4月の保育所長会に参加 ④全22校で実施	A	①全22校で実施(100%) ②全13校で作成(100%)	A	学校 教育係 (主監)	保幼小中連携教育の充実とスタートカリキュラムの作成 ①保幼小中連携教育の研究指定校の設定 ②保幼小情報交換会の開催 ③保育所長会への参加 ④小中の連携教育の実施 ⑤小学校においてスタートカリキュラムの作成				
	(4)国際理解教育・英語教育の充実	成果	①「全国学力・学習状況調査」英語において全国平均以上をめざす。 ②中3卒業段階において英語検定3級程度取得50%以上をめざす。	学校 教育係 (主監)	英語教育・外国語活動の充実 ①英語検定3級受験料半額補助 ②ALTの重点配置校の指定による英語力の底上げ ③小学校外国語活動に係る研修会の実施 ④中学校における4技能スコア型検定試験GTECの実施 ⑤四万十イングリッシュ・フェスティバルの実施	①年度内に事業実施(38名助成) ②重点配置校3校(中村中、中村西中、西土佐中)を指定 ③コロナ禍により未実施 ④10月に実施 ⑤コロナ禍により、10月に代替開催	A	①全国学力・学習状況調査の英語がない年度のため標準学力調査の英語の結果を用いて評価(全国平均との比較) 本市中学3年生62.3÷全国平均62.9=成果目標に対する達成率99.0% ②中3卒業段階における英語検定3級程度取得率38.3%(成果目標に対する達成率76.6%)	B	学校 教育係 (主監)	英語教育・外国語活動の充実 ①英語検定3級受験料半額補助 ②ALTの重点配置校の指定による英語力の底上げ ③小学校外国語活動に係る研修会の実施 ④中学校における4技能スコア型検定試験GTECの実施 ⑤四万十イングリッシュ・フェスティバルの実施				
	(5)特別支援教育の推進	活動	①障害のある子どもの能力や特性を最大限に伸ばす。 ②発達障害のある子ども、あるいはその疑いや傾向がみられる子どもの学習・生活支援 ③障害のある子どもの適正就学 ④特別支援教育学校コーディネーターの専門性の向上 ⑤校内支援体制の強化	学校 教育係 (主監)	ユニバーサルデザインに基づく学習環境の充実	全22校で実施	A	①学習環境の充実が図られた	○	学校 教育係 (主監)	ユニバーサルデザインに基づく学習環境の充実				
		特別支援教育支援員配置	11校への支援員を通年配置	A	②支援員を配置した11校において学習・生活支援が実施された ⑤支援員の配置により校内支援体制が強化された	○	特別支援教育支援員配置								
		相談支援体制の整備	教育相談実施(41人) 巡回相談実施(57人)	A	③適正な就学判断に繋がった	○	相談支援体制の整備								
		特別支援教育学校コーディネーター研修会の実施	R3.6、R3.11実施	A	④研修参加者(1回目:22人、2回目:23人) ⑤研修によりコーディネーターの資質が向上し、校内支援体制が強化された	○	特別支援教育学校コーディネーター研修会の実施								

第2期四万十市教育振興基本計画 施策進捗状況確認シート

施策の柱	目標種別	R2～R6 成果等目標	R3年度					R4年度						
			R3 担当	R3年度の取組計画(目標)	R3年度の取組実績	取組 等達成 度	R3年度の成果・効果	成果 等達成 度	R4 担当	R4年度の取組計画(目標)	R4年度の取組実績	取組 等達成 度	R4年度の成果・効果	成果 等達成 度
1 確かな学力を育む(知育)	成果	(6)複式教育の充実	(学)学校 校教育 係課 (指導 主事)	複式教育の充実 ①複式教育研究大会の実施 ②小小連携教育の推進 ③授業づくり講座への参加	①大用小学校で実施 ②市内小規模校の①、③への参加 ③蕨岡小学校で実施(算数)	A	・複式小学校7校中全校において研修に2回以上参加(100%) ・次年度複式となる学校も2回以上参加	A	(学)学校 校教育 係課 (指導 主事)	複式教育の充実 ①複式教育研究大会の実施 ②小小連携教育の推進 ③授業づくり講座への参加				
	成果	(7)情報教育の推進	(学)学校 校教育 係課	ICT機器及び通信環境の整備 ①PCの整備 (中学校2、3年生分) ①導入したPCの授業等における利活用の推進(教職員の研修、授業用ソフトの活用等)	①全22小中学校において、1日1回は授業で活用 ①県の整備した、オンライン学習を支援する学習支援プラットフォーム「高知家まなびばこ」の活用	A	①計画に対する整備率180%(9学年/5学年) ②必要校整備率100%(22校/22校)	S	(学)学校 校教育 係課 (指導 主事)	ICT機器及び通信環境の整備 ①PCの整備 (小学校3、4年生分) ①導入したPCの授業等における利活用の推進(教職員の研修、授業用ソフト・デジタル教科書の活用等)				
	活動		(学)学校 校教育 係課 (指導 主事)	各校におけるプログラミング教育の充実	全22校においてアンプラグドも含めたプログラミング教育を実施した。	A	プログラミング教育の実施を通して「情報活用能力」が教科等横断的に育成された。	O	(学)学校 校教育 係課 (指導 主事)	各校におけるプログラミング教育の充実				
2 子どもたちの豊かな心を育む(徳育)	成果	(1)豊かな心を育む教育の推進	(学)学校 校教育 係課 (指導 主事)	四万十市・三原村道徳教育推進委員会の開催・運営 ①4月・2月に全体の推進委員会の開催 ②小・中それぞれで公開授業研修会及び授業反省会の実施 ③実践のまとめ作成	①R3.6、R4.2に実施 ②竹島小学校・西土佐中学校で実施 ③道徳の成果や課題学習、学習指導案をまとめた集録を全22校で作成	A	令和3年度全国学力学習状況調査 児童生徒質問紙設問(6)、(7)、(12)の肯定的評価割合の平均 ○小学校 +3.4 全国84.2、本市87.6 ○中学校 +4.3 全国79.9、本市84.2 小中平均+3.85P÷目標+3P=達成率128.3%	S	(学)学校 校教育 係課 (指導 主事)	四万十市・三原村道徳教育推進委員会の開催・運営 ①4月・2月に全体の推進委員会の開催 ②小・中それぞれで公開授業研修会及び授業反省会の実施 ③実践のまとめ作成				
	成果	(2)いじめ・不登校問題等への取組	(学)学校 校教育 係課 (主監)	生活指導・生徒指導の充実【不登校・問題行動等調査】 ①月ごとの3日以上欠席者調査及び個々の状況把握とその分析(教育研究所) ②教育支援センター不登校児指導員・SSWによる家庭訪問 ③不登校担当者会の年2回の実施 ④学校訪問の実施	①月報により実施 ②教育支援センターに不登校児指導員4名、SSW2名を配置し、適宜適切に実施した。 ③R3.6、R3.12に実施 ④9-10月に全校実施	A	令和2年度不登校人数(1,000人あたりの出現率) 小学校14.6人(全国10.0人) 中学校55.3人(全国40.9人)	B	(学)学校 校教育 係課 (主監)	生活指導・生徒指導の充実【不登校・問題行動等調査】 ①月ごとの3日以上欠席者調査及び個々の状況把握とその分析(教育研究所) ②教育支援センター不登校児指導員・SSWによる家庭訪問 ③不登校担当者会の年2回の実施 ④学校訪問の実施				
	成果		(学)学校 校教育 係課 (主監)	Q-Uアンケートの実施・分析を通じた学級づくりの推進 ①1学期及び2学期後半のQ-U実施を通して学級の状況把握 ②各学級の実態について共有化を図り、課題のある子どもへの対応策の実施	①全22校で実施 ②全22校で、校内研修や校内支援会において共有化・対応策の検討	A	1学期結果:68.7% 2学期後半:77.1% 満足群の子どもの割合が高まった(112.2%)。	S	(学)学校 校教育 係課 (主監)	Q-Uアンケートの実施・分析を通じた学級づくりの推進 ①1学期及び2学期後半のQ-U実施を通して学級の状況把握 ②各学級の実態について共有化を図り、課題のある子どもへの対応策の実施				

第2期四万十市教育振興基本計画 施策進捗状況確認シート

施策の柱	目標種別	R2～R6 成果等目標	R3年度					R4年度							
			R3 担当	R3年度の取組計画(目標)	R3年度の取組実績	取組 等達成 度	R3年度の成果・効果	成果 等達成 度	R4 担当	R4年度の取組計画(目標)	R4年度の取組実績	取組 等達成 度	R4年度の成果・効果	成果 等達成 度	
2 子どもたちの豊かな心を育む(徳育)	成果	(3)安全・防災教育の充実	学 校 教 育 係 課	防災教育の推進・避難訓練の実施 ①危機対応マニュアル(防災マニュアル)の整備 ②「高知県安全教育プログラム」を使用した防災教育の実施率を100%とする。	①全22校で整備 ②、③全22校で実施	A	①各校において避難訓練の実施 年3回以上校が100% ②実施率100%	A	学 校 教 育 係 課	防災教育の推進・避難訓練の実施 ①危機対応マニュアル(防災マニュアル)の整備 ②想定状況を違えた年3回以上の避難訓練の実施 ③「高知県安全教育プログラム」を活用した防災教育の実					
	成果	(4)学校・家庭・地域の連携強化	学 校 教 育 係 課	①市内全域の小中学校において学校地域支援本部事業に取り組む ②コミュニティ・スクールの設置に努める。	①学校支援地域本部事業推進 ②コミュニティ・スクールの研究	A	①22校で実施(100%) ②新設は0だが、目標年度はR5年度のためR2での成果判定を行わない。	A	学 校 教 育 係 課	学校支援地域本部事業 ①学校支援地域本部事業推進 ②コミュニティ・スクールの研究					
	成果	(5)ふるさと教育の推進	(学 校 教 育 係 課 主 事)	①すべての学校の年間指導計画にふるさと学習を位置づける。 ②研究発表会に、すべての小学校が参加する。	ふるさと教育の推進 ①各学校の年間指導計画に位置づけ ②四万十市一校一役教育研究の研究指定校の指定 ③「ふるさと発見! 四万十の子ども研究発表会」の開催	①全25校で実施 ②大用小、下田中、大用中を指定 ③コロナ禍により不実施	A	①全22校で位置づけ(100%) ②コロナ禍により不実施のため成果判定を行わない。	A	(学 校 教 育 係 課 主 事)	ふるさと教育の推進 ①各学校の年間指導計画に位置づけ ②四万十市一校一役教育研究の研究指定校の指定 ③「ふるさと発見! 四万十の子ども研究発表会」の開催				
	活動	(6)キャリア教育の充実	(学 校 教 育 係 課 主 事)	キャリアパスポート(学習記録ノート)を作成・活用する。	キャリアパスポート(学習記録ノート)を作成・活用	全22校で作成・活用 全22校で上級学年・上級学校への引継ぎ	A	社会で人と人が関わりながら生きていくために欠かせないスキルが身に付き、コミュニケーション能力の向上に繋がった	○	(学 校 教 育 係 課 主 事)	キャリアパスポート(学習記録ノート)を作成・活用				
	活動	(7)環境教育の推進	四万十川に代表される豊かな自然や水資源、森林資源など地域の恵まれた自然環境を有効活用し、体験活動を通して自然保護に対する意識の高揚を図る。	学 校 教 育 係 課	自然体験型学習事業	コロナ禍のため未実施(中学校で合同実施を計画)	C	未実施のため評価不能(自然体験活動を通して自然保護に対する意識の高揚を企図)	△	学 校 教 育 係 課	自然体験型学習事業				
	活動			学 校 教 育 係 課	山の学習支援事業の実施	市内5校を対象に実施。	A	自然環境を有効活用した学習を通して自然保護に対する意識の高揚が図られた。	○	学 校 教 育 係 課	山の学習支援事業の実施				
	成果	(8)教育環境の整備	学 校 教 育 係 課	令和4年4月を目標に、市内中学校を3校に再編する。	四万十市立小・中学校再編計画(第2次)の推進 ①施設整備(中村西中学校大規模改造本体工事) ②蕨岡中学校、大川筋中学校、川登小学校の統合 ③スクールバスの購入・運行計画の策定 ④児童生徒の事前交流事業等の取り組み ⑤未合意校区との意見交換会、保護者アンケート等の実施	①本体工事の完了 ②3校の統合実施及び翌年度に向けた統合準備 ③5台購入、新規5路線の運行計画策定及び継続8路線の運行計画調整 ④コロナウイルス感染症の状況に応じた事前交流事業の実施 ⑤これまでの経過を踏まえ、令和4年4月からの下田中学校の現下田小学校への移設及び令和6年3月末までの下田中学校継続等の方針を定めた。大用中学校については、意見交換会を実施。	A	本年時点での中学校再編に係る実施率87.5%(7校/8校)	B	学 校 教 育 係 課	四万十市立小・中学校再編計画(第2次)の推進 ①後川中学校、下田中学校(竹島小学校区)、八東中学校、東中筋中学校、中筋中学校の統合 ②下田中学校の移設 ③スクールバスの運行 ④児童生徒の事前交流事業等の取り組み ⑤未合意校区との意見交換会、保護者アンケート等の実施				

第2期四万十市教育振興基本計画 施策進捗状況確認シート

施策の柱	目標種別	R2～R6 成果等目標	R3年度					R4年度						
			R3 担当	R3年度の取組計画(目標)	R3年度の取組実績	取組 等達成 度	R3年度の成果・効果	成果 等達成 度	R4 担当	R4年度の取組計画(目標)	R4年度の取組実績	取組 等達成 度	R4年度の成果・効果	成果 等達成 度
3 健やかな身体を育む (体育)	成果	<p>①体育・保健体育の授業が楽しいと思う児童生徒の割合95%以上を目指す。</p> <p>②【市総合計画指標】全国体力・運動能力、運動習慣等調査におけるT得点 小学校:全国平均以上 中学校:全国平均+3ポイント</p>	学学校 校教育 係課 (主 監)	<p>体力・運動能力向上に向けた特色ある取組</p> <p>児童生徒の実態に基づく体力向上策の策定と実施(学校経営計画との関連を図る)</p>	全22校で学校経営計画に体力向上策を位置づけ、実施	A	<p>①本市小学5年生及び中学2年生における肯定的評価91.8%÷成果目標95.0%=成果目標に対する達成率 96.6%</p> <p>②小学5年男女平均T得点49.8点÷全国平均50点=成果目標に対する達成率99.5%</p> <p>③中学2年男女平均T得点52.1点÷成果目標53点=成果目標に対する達成率98.3%</p>	A	学学校 校教育 係課 (主 監)	<p>体力・運動能力向上に向けた特色ある取組</p> <p>児童生徒の実態に基づく体力向上策の策定と実施(学校経営計画との関連を図る)</p>				
	成果	<p>規則正しい生活リズムが身に付いている(毎日、同じくらいの時刻に起床)児童の割合75%以上、生徒の割合65%以上とする。</p>	学学校 校教育 係課 (主 監)	<p>基本的な生活習慣の定着に向けた学校と家庭が連携した取組の推進</p> <p>①学期に1回のアンケート調査の実施 ②学校便り等によるアンケート結果の家庭への情報提供 ③食生活調査の実施 ④学校給食摂取基準の作成(体重、身長から栄養価を出す。肥満傾向児出現率の算出) ⑤みそ汁コンテストの実施(給食献立に採用) ⑥給食時間の放送(早寝早起きについて啓発)</p>	<p>①全22校で実施。 ②全22校で実施。 ③6月実施。小5、中1対象。 ④4.5月実施の身体測定結果より計算し、7月摂取基準作成。 ⑤朝ごはんコンテストに変更し、8月実施。小5以上対象。応募416、採用35件。 ⑥毎月実施。</p>	A	<p>(全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙 令和3年度調査結果) 設問「毎日、同じくらいの時刻に起きている」に対する「そう思う」の回答率 児童54.5%、生徒64.9%(達成率84.6%=(54.5+64.9)/(55.0+57.6))</p> <p>(参考:肯定的回答率 児童92.8%、生徒 93.6%)</p>	S	学学校 校教育 係課 (主 監)	<p>基本的な生活習慣の定着に向けた学校と家庭が連携した取組の推進</p> <p>①学期に1回のアンケート調査の実施 ②学校便り等によるアンケート結果の家庭への情報提供 ③食生活調査の実施 ④学校給食摂取基準の作成(体重、身長から栄養価を出す。肥満傾向児出現率の算出) ⑤朝ごはんコンテストの実施(給食献立に採用) ⑥給食時間の放送(早寝早起きについて啓発)</p>				
	成果	<p>朝食を必ず食べる児童の割合を95%以上、生徒の割合を90%以上とする。</p>	学学校 校給食 教育 係課	<p>食事の重要性について理解を図る年間指導計画の作成</p> <p>①食に関する指導の全体計画及び年間指導計画に基づく食育の推進 ②学校給食の献立から減塩化を図る</p>	①～② 全22校で実施	A	<p>(令和3年度 食に関する指導の実施状況調査) 朝食を必ず食べる児童の割合89%、生徒の割合78%(達成率90.3%=(89+78)/(95+90))</p>	A	学学校 校給食 教育 係課	<p>食事の重要性について理解を図る年間指導計画の作成</p> <p>①食に関する指導の全体計画及び年間指導計画に基づく食育の推進 ②学校給食の献立から減塩化を図る</p>				

第2期四万十市教育振興基本計画 施策進捗状況確認シート

施策の柱	目標種別	R2～R6 成果等目標	R3年度					R4年度						
			R3 担当	R3年度の取組計画(目標)	R3年度の取組実績	取組 等達成 度	R3年度の成果・効果	成果 等達成 度	R4 担当	R4年度の取組計画(目標)	R4年度の取組実績	取組 等達成 度	R4年度の成果・効果	成果 等達成 度
4 地域文化の振興	成果	(1)文化財の保護	社会 生涯 教育 学習 振興 課 係	文化財調査の実施 ①開発事業に伴う試掘確認調査及び報告書作成 ②博物館展示のための調査 ③博物館収蔵資料に関する調査	①報告書原稿の作成 ② ・テナガエビ展関連調査 ・幸徳秋水展関連調査 ・沈下橋展関連調査実施 ③ ・歴史資料目録作成調査 ・歴史資料目録刊行 ・寄贈資料確認調査	A	①3件(年間目標4件に対し75%) ②新規県指定文化財計画期間中累計1件(2年目累計目標0.8件に対し125%) ③博物館企画展4回(年間目標2回に対し167%) ④収蔵資料増加数5点(年間目標2点に対し250%)	S	社会 生涯 教育 学習 振興 課 係	文化財調査の実施 ①開発事業に伴う試掘確認調査及び報告書作成、遺物整理 ②博物館展示のための調査 ③博物館収蔵資料に関する調査			【年度毎に漸増する成果指標の記載例備忘】 ②新規県指定文化財計画期間中累計●件(3年目累計目標1.2件に対し●%)	
	成果	(2)郷土文化の活用	社会 生涯 教育 学習 振興 課 係	郷土博物館の運営 ①年間4回の企画展開催 ②小中学校と連携したふるさと教育への活用 ③普及イベントの開催	① ・四万十風景ことはじめ蔵岡展:R3.3月～6月 ・さらたび 手長エビの唐揚げ篇:R3.7月～11月 ・秋水からのメッセージ展:11月～R4.2月 ②小学校10校、中学校5校で出前事業を実施 ③博物館内クイズラリー実施	A	博物館来館者数 4,385人(令和3年度目標6,400人に対し69%)	C	社会 生涯 教育 学習 振興 課 係	郷土博物館の運営 ①年間4回の企画展開催 ②小中学校と連携したふるさと教育への活用 ③普及イベントの開催				
	成果		文化的景観の保全について各種事業と適切な調整が行われ、効果的な活用が継続される。 【市総合計画指標】 地域文化に関する講座数年間25回	社会 生涯 教育 学習 振興 課 係	四万十川の文化的景観の保全・継承 ①まち歩きと連動したサイト運営 ②文化的景観サイン設置協議 ③生態・集落等モニタリング調査 ④くろそん手帖ツアー、展示会の開催 ④保存活用計画の見直し	①まち歩きと連動したサイト運営 ・企画展連携1回 ②サイン2基設置 ③コロナのため未実施 ④R2.9月、11月開催 ⑤流域会議2回開催 市検討会議1回開催	B	地域文化に関する講座23回(地域講演3回、団体講座4回、図書館講座1回、出前授業15回計23回)(目標回数に対し92%)	A	社会 生涯 教育 学習 振興 課 係	四万十川の文化的景観の保全・継承 ①まち歩きと連動したサイト運営 ②生態・集落等モニタリング調査 ③重要な構成要素追加協議 ④くろそん手帖ツアー、展示会の開催 ⑤保存計画刊行			
5 青少年の育成	成果	(1)青少年健全育成活動の充実	少年 学校 補導 セン ター	少年補導センター活動 ①街頭巡回 ②環境浄化活動 ③学校における情報モラル教室(非行防止教室)の開催 ④インターネット接続機器のフィルタリングの普及啓発(インターネットの利用ルール啓発)	①(3月末見込回数) 午前巡回 179回 下校時巡回 168回 合同早朝パト 25回 夜間パト 13回 ②(1月末時点) 巡回時の声かけ1,533回、指導191回(登下校時、量販店、公園、遊泳場等) ③16会場23教室で実施 ④インターネット利用に関するアンケート実施、幡多っ子ネット宣言の啓発	A	①2年度目の目標校数9校(全22校の2/5)に対し、計画期間中累計実施校数12校 ②年間補導人数 0人	S	少年 学校 補導 セン ター	少年補導センター活動 ①街頭巡回 ②環境浄化活動 ③学校における情報モラル教室(非行防止教室)の開催 ④インターネット接続機器のフィルタリングの普及啓発(インターネットの利用ルール啓発)			【年度毎に漸増する成果指標の記載例備忘】 ①3年度目の目標校数11校(全18校の3/5)に対し、計画期間中累計実施校数●校	
	活動		社会 生涯 教育 学習 振興 課 係	○青少年健全育成事業の実施	○土器づくり体験及び考古学講座の実施(3月予定) ○博物館クイズラリー(企画展と連動。通年) ○まちなか探偵団の実施	A	コロナ禍の中、難しいところもあるが、親子参加の事業を実施するなど、青少年健全育成に取り組んでいる。	○	社会 生涯 教育 学習 振興 課 係	○青少年健全育成事業の実施				

第2期四万十市教育振興基本計画 施策進捗状況確認シート

施策の柱	目標種別	R2～R6 成果等目標	R3年度					R4年度					
			R3 担当	R3年度の取組計画(目標)	R3年度の取組実績	取組 等達成 度	R3年度の成果・効果	成果 等達成 度	R4 担当	R4年度の取組計画(目標)	R4年度の取組実績	取組 等達成 度	R4年度の成果・効果
6 生涯学習の振興	(1)誰もが参加しやすい生涯学習の充実と推進	図書環境の整備充実 【市総合計画指標】 ①図書館利用者登録率(人口比17.2%) ②市民一人当たり貸出点数(5.07冊) ③ネット予約冊数(700冊)	生涯学習係 公民館運営係	○指定管理による図書館運営 ○子ども読書活動の推進	○図書館連絡会の開催(毎月) ○子ども読書活動推進委員会(2月) ○子ども読書アンケートの実施(12～1月)	A	①図書館利用者登録率13.46%(目標17.2%に対し78.3%) (2月末現在4,424人) ②市民一人当たり貸出点数4.05冊(目標5.07冊に対し79.9%) (2月末現在133,104冊,年間144,117冊と見込む) ③ネット予約冊数1,360冊(目標700冊に対し194.3%) ネット予約については環境整備により目標冊数を大幅に上回ったが、①②につながっていないことから、成果等達成度については①②の達成率からBとした。	B	生涯学習係 公民館運営係	○指定管理による図書館運営 ○子ども読書活動の推進			
		市立中央公民館の閉館後においても、令和元年度に実施した生涯学習事業と同等の事業展開を図る 【市総合計画指標】 生涯学習講座の参加者数400人	生涯学習係 公民館運営係	生涯学習活動の継続及び支援 ①既存施設を利用した生涯学習事業の継続 ②登録団体への支援	①四万十シルバー教室(延べ210人) ・中国語講座(16人) ・中国異文化講座(8人) ・市民大学(3講座:323人) ・高知大学出前公開講座(3講座:42人) ・色鉛筆画体験教室(15人) ・日本画体験教室(9人) ・松ぼっくりツリーづくり教室(15人) ・しめ飾りづくり教室(23人) ②登録団体の活動支援として、団体の施設使用料の一部負担をした。(R3.4月～R4.3月)	A	生涯学習講座の総参加者数 661人/400人=165.3%	S	生涯学習係 公民館運営係	生涯学習活動の継続及び支援 ①既存施設を利用した生涯学習事業の継続 ②登録団体への支援			
		管理運営実施計画や実施設計の策定	生涯学習係 文化複合施設整備推進室(仮称)	文化複合施設整備に係る支援 ①施設建設に係る支援及び助言	文化複合施設整備に係る工事等の実施 ①実施設計の策定(R2.4.21～R3.6.30) ②建設地周辺家屋事前調査(R3.5.1～R3.7.28) ③建設工事監理業務(R3.7.7～R5.7.7) ④施設建設工事(建築主体工事、電気設備工事、機械警備工事、舞台設備工事)(R3.6.30～R5.6.30) ⑤市道五月馬渡線他道路詳細設計(R3.5.1～R3.8.16)	A	施設竣工(令和5年6月予定)に向け、実施設計を完了し、建設工事についても順調に進捗している。	A	生涯学習係 文化複合施設整備推進室	文化複合施設整備に係る支援 ①施設建設に係る支援及び助言 文化複合施設整備に係る工事等の実施 ①工事監理業務委託 ②施設建設工事(建築主体工事、電気設備工事、機械警備工事、舞台設備工事)の実施 ③施設映像音響・情報表示設備工事の実施 ④施設情報ネットワーク工事の実施 ⑤施設備品購入契約の締結			

第2期四万十市教育振興基本計画 施策進捗状況確認シート

施策の柱	目標種別	R2～R6 成果等目標	R3年度					R4年度							
			R3 担当	R3年度の取組計画(目標)	R3年度の取組実績	取組 等達成 度	R3年度の成果・効果	成果 等達成 度	R4 担当	R4年度の取組計画(目標)	R4年度の取組実績	取組 等達成 度	R4年度の成果・効果	成果 等達成 度	
6 生涯学習の振興	成果	設置目的の異なる施設を複合化した施設となるので、管理や運営に必要な事項を定め、スムーズな開館・運営を行う	文化複合生涯学習施設整備推進室(仮称)	文化複合施設開館準備 ①条例制定 ②規則制定 ③管理運営マニュアル作成 ④指定管理者応募要領の作成 ⑤開館記念事業検討 ⑥必要備品の検討	文化複合施設開館準備業務の実施 ①R4.3.19条例制定。 ②素案を作成済。 ③未実施(R4指定管理者選定後作成予定) ④素案を作成済。 ⑤実施方針案を作成済。 ⑥購入リスト案を作成済。 ○市民説明会2回、市民ワークショップ3回開催、整備検討委員会3回開催、プレイベント(青空マルシェ&野外ステージ)開催	A	令和6年4月予定の開館に向け、概ね順調に進捗している。	A	文化複合生涯学習施設整備推進室	文化複合施設開館準備 ①指定管理者の公募・指定 □開館記念事業検討 ②開館記念事業の準備 ③プレイベントの実施					
	活動	質の高い芸術文化に触れる機会を確保し、文化芸術に関わる人材の育成、団体活動の支援を行う	公民館運営係・生涯学習課・社会教育振興係	①四万十市美術展の実施 ②四万十川国際音楽祭の実施 ③四万十市文化祭の実施	① ・運営委員会(3回) ・四万十市美術展(11月。入場者970人) ② ・実行委員会(6回) ・中響演奏会(7月、309人) ・県立美術館他主催コンサート(9月、173人。共催事業) ・ジュニア弦楽アンサンブル講座(R3.6月～R4.3月) ③ ・執行委員会(2回) ・文化祭参加団体への支援(R3.8月～12月。参加団体23団体) ・合同文化祭の実施(11月) その他:こども演劇祭 ・実行委員会(3回) ・小学校公演(5月、1,573人) ・保育所公演(7月～8月、597人) ・フェスティバル公演(10月、366人) ・四万十川絵画展入賞作品(10点)展示	A	コロナ禍で感染対策等の困難はあったが、市民が芸術に親しむ機会と自ら参加する場を提供、文化芸術の振興に寄与した。	○	公民館運営係・生涯学習課・社会教育振興係	①四万十市美術展の実施 ②四万十川国際音楽祭の実施 ③四万十市文化祭の実施					
	活動	人権問題の学習機会の充実を図る	人生権涯教育学習係	①人権教育推進講座の開催 ②人権教育研究大会の開催	①11～12月に計4回開催。延べ70名参加。 ②8/6開催。教職員、保育士を中心に延べ359名参加。	A	コロナウイルス感染防止対策として3密回避や消毒、リモート等を活用しながら講座や大会が開催でき、人権教育の学習機会創出を図れた。	○	人生権涯教育学習係	①人権教育推進講座の開催 ②人権教育研究大会の開催					
	活動	男女共同参画意識の形成を図る	人生権涯教育学習係	①男女共同参画講座の開催 ②男女共同参画計画の推進	①文化教室(4種、計27回)、講演(2回) ②男女共同参画計画推進協議会開催(1回)、婦人会活動支援(補助金等)	B	働く婦人の家講座を継続しながら、より男女共同参画に資する講座を取り入れた。一方広報啓発活動が十分ではなく課題である。	△	人生権涯教育学習係	①男女共同参画講座の開催 ②男女共同参画計画の推進及び中間評価					

第2期四万十市教育振興基本計画 施策進捗状況確認シート

施策の柱	目標種別	R2～R6 成果等目標	R3 担当	R3年度					R4年度					
				R3年度の取組計画(目標)	R3年度の取組実績	取組 等達成 度	R3年度の成果・効果	成果 等達成 度	R4 担当	R4年度の取組計画(目標)	R4年度の取組実績	取組 等達成 度	R4年度の成果・効果	成果 等達成 度
7 スポーツの振興	成果	①教室後のアンケート調査において満足群の参加者の割合を高める。 満足群率目標80% ②【市総合計画指標】1人当たりの社会体育施設利用者数(5.0回人口比)	スポ生 生涯学習振興課	スポーツ人口の裾野拡大及び市民スポーツの普及 ①スポーツ体験教室 ②日本体育大学スポーツ等連携事業 ③体育施設の計画的な老朽化対策	①コロナ禍により不実施 ②佐藤弘道氏を招聘し、市民大学講師、親子体操教室並びに指導者向け実技講習を開催 ③ア.温水プール空調機修繕イ.温水プールの過装置ろ材交換ウ.安並運動公園テニスコート場改修	B	①体験教室不実施のため、評価不能。日体大連携事業2教室等のアンケート結果→76人中75人が満足との回答を得た。(満足度99%) ②令和3年度3.8回(2月末時点集計、目標に対し76%) 本項達成度平均87.5%	B	スポ生 生涯学習振興課	スポーツ人口の裾野拡大及び市民スポーツの普及 ①スポーツ体験教室 ②日本体育大学スポーツ等連携事業 ③体育施設の計画的な老朽化対策				
				四万十川リバーサイドフルウォークの実施	・開催日 令和3年4月3日、4日 ・開催場所 四万十川沿いの6コース ・参加者 4/3 65名、4/4 54名	B	コロナ禍の中、感染対策をしながらの2年振りの開催となったが、2日ともあいにく雨天となり、参加者は過去最低となった。コロナ対策を実行委員会で検討し、実行できたことは成果であったが、大会自体のあり方について今後も検討が必要。	△		四万十川リバーサイドフルウォークの実施及び大会のあり方等の見直し				
	四万十川ウルトラマラソンの実施	新型コロナ感染症拡大のため中止	C	不実施により効果不明	△	四万十川ウルトラマラソンの実施								
	スポーツ合宿の誘致活動	【スポーツ合宿】 以下合宿は新型コロナ感染症拡大のため中止 ・香川高専硬式野球部 ・同志社大学硬式野球部 ・京都先端科学大学硬式野球部 ・びわこ成蹊スポーツ大学硬式野球部 ・日体大男子柔道部 【誘致活動】 ・東京方面誘致活動(11/16～11/18) ・高知市 ソフトボール大会誘致活動他(6/3、11/5、12/27)	B	コロナが落ち着きを見せた昨年秋以降、スポーツ合宿も徐々に戻りつつあるが、コロナ第6波の影響が心配される。 誘致活動については、東京近郊の旅行会社を中心に訪問し、好感触を得た他、岡本友章氏を通じてソフトボール男子アジアカップや西日本ソフト(シニア)の本市開催が計画されている。	○	スポーツ合宿等の誘致活動								
西日本一般男子ソフトボール大会	・開催日 令和3年11月13日、14日 ・開催場所 四万十市(四万十スタジアム他)及び宿毛市(総合運動公園) ・参加チーム 18チーム(約250名)	A	西日本クラスのソフトボールの公式試合は本市で初であったが、宿毛市や市スポーツ協会、市観光商工課等と連携し、大会も円滑に行われた。 参加チームの殆どが2泊しており、両市の宿泊場所や飲食店等も賑わったということで開催効果も感じている。 好事例として次の大会等へのステップにもなった。	○	西日本一般男子ソフトボール大会 ①2022男子ソフトボールアジア選手権の実施 ②2022U23男子ソフトボールアジア選手権の実施 ③西日本シニア男子ソフトボール大会の実施									
①交流人口増大 ②地域経済活性化 ③市民スポーツ意識の向上 ④競技力の向上	スポ生 生涯学習振興課													

○目標種別

成果 = 施策に「主な取り組み表」があるものは「成果」目標があるものとして取り扱い、「成果」を選択する
 活動 = 施策に「主な取り組み表」がなく、また本文に成果目標が無いものは「活動」を選択する
 ※「活動」の場合、各施策の本文中で目指している「効果」を効果目標として記入する。

○取組等達成度評価区分

S=計画以上の実施
 A=計画通り
 B=実施内容が計画より低水準
 C=未実施

○成果等達成度評価区分

・成果区分(目標種別が「成果」の施策)
 S=達成度が105%以上
 A=達成度が90%以上105%未満
 B=達成度が70%以上90%未満
 C=達成度が50%以上70%未満
 —=成果が確認できなかったもの

・効果区分(目標種別が「活動」の施策)
 ○=良い効果が得られたもの
 △=効果が無いか、効果影響の良否が不明となったもの
 ×=悪い効果となったもの